

3 黒板の使い方

板書の意義

黒板を十分に活用していますか。黒板は重要な教具であり、黒板の有効な活用は、生徒の学びを深めることにつながります。

板書の意義について考えてみましょう。

- ① 板書によって、学習内容を的確に伝えることができます。
- ② 書いて残すことで、1単位時間の流れが分かります。
- ③ 授業の記録として授業を振り返ることができます。
- ④ 生徒の考えを共有し、整理することで学びが深まります。
- ⑤ 書く作業によって、授業に程よい間が生まれます。

有効活用のために

板書の意義を踏まえ、黒板を有効活用するために、学習内容を整理して1単位時間の流れが分かるように板書する必要があります。

そのために、課題の提示、意見の集約、整理等の方法について、事前に計画を立てることが大切です。

また、文字の大きさ、色チョークや短冊カードの活用、書くタイミングなども計画の際に考えておきましょう。

ノートを学びに活用する

「板書を書き写す」ことだけが授業中の作業になっている生徒はいませんか。もちろん、板書を書き写すことは必要なことですが、ノートに転記する際に、自分の考えや友達の意見を書き添えたり、後で資料を調べて書き加えたりすることができるのがノートの意義です。ノート指導も併せて行いましょう。

☆板書計画を立てよう

いくら授業内容が良くても、授業中に思いついたことをそのまま板書しているのでは、生徒の学習効果は上がりません。

日常から授業の前に板書計画を立てることが大切です。小学校や中学校の実践を参考に、自分の板書を磨いていきましょう。

板書の構造化

板書の量が多いと、どの情報に注目してよいか混乱してしまいます。字の大きさや書く位置などを工夫しながら情報につながりをもたせ、板書を構造化することも大切です。

個別支援が必要な生徒への対応を考えよう



黒板の活用

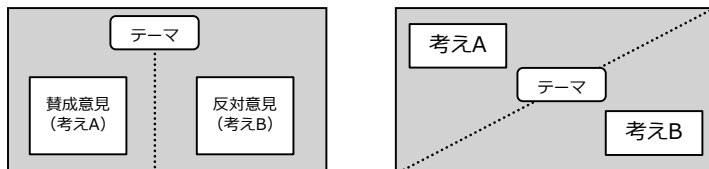


目標の提示

板書は生徒と教員の共通のノートです。本時の目標を明確に位置付けておきましょう。課題に取り組むことが目標ではなく「どのような力が身に付くのか」が分かるように提示します。

意見の集約

生徒の考えを整理しながら板書します。キーワードのような短い言葉で整理すると分かりやすく書くことができます。



*キーワードを書く場所を決めて、整理していく方法が有効です。

要点をまとめる

授業の要点をまとめて、分かりやすく示すために、図式化すると良いでしょう。キーワードを構造的に置いて、線でつなぐなど工夫しましょう。事前にマグネット付きのカードに書いておくと、時間を省けますし、大事な点が視覚的に伝わります。

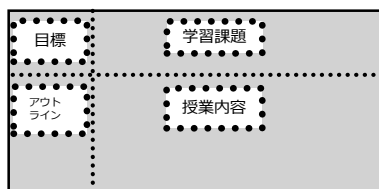
また、色チョークを活用するのも有効です。その際、色の約束を生徒と確認しておくとう良いでしょう。

〈例〉 黒板の活用法



黒板を三つに区切って活用

・左は目標と授業のアウトライン、中央は授業の内容、右は発展的な課題を書く。アウトラインを示すことで見通しをもった学習が展開できる。この他、左に課題、中央に解説、右にまとめといった活用もできる。



黒板を四つに区切って活用

・左上段に目標、左下段に授業のアウトライン、学習課題を右の上段に最初を書く。目標、アウトライン、学習課題を明確にしておくことがポイント。

① 黒板の使い方について、校内で統一のルールを設けている学校があります。所属校のルールの有無について、確認しましょう。

② 自身の授業後の黒板を撮影し、次の点について分析しましょう。

- ・ その時間の学びの流れが板書に残っているか。
- ・ その授業でどのような資質・能力を身に付けさせようとしていたかが伝わる板書になっているか。

③ 周りの教員の授業後の板書を撮影させてもらい、何を意識して板書しているか教わりましょう。

特に、「一時的に書くもの」「授業の最後まで残しておくもの」「口頭だけで板書しないもの」の区別について尋ねてみましょう。

カラーユニバーサルデザイン

「カラーユニバーサルデザイン」とは、様々な人の色の見え方に配慮した視覚情報のデザインです。黒板では、赤や青のチョークが見えにくい生徒がいます。また、ピンク系の赤チョークが、白や青と区別しにくいと感じる生徒もいます。赤や青を使わずに、白や黄色を使うようにすると良いでしょう。

また、色の明度や彩度に差をつけて色の識別をしやすくした、ユニバーサルデザイン対応のチョークも市販されていますので、利用するのも良いでしょう。→1章-11